

都市交通における自動運転技術の活用方策に関する検討会スケジュール

今後のスケジュール

- H29年度より 自動運転の普及が都市構造や都市交通・交通施設にどのような影響を及ぼすかを抽出・整理し、都市にとって望ましい自動運転技術の活用のあり方を検討。
- R3年度からは、自動運転技術の早期実装に向け、限定空間における実装に着目し、バスや歩道を低速で走行するモビリティを活用した社会実験を通じて、都市交通施設のあり方の検討を深度化。

H29～H30年度

R1～R2年度

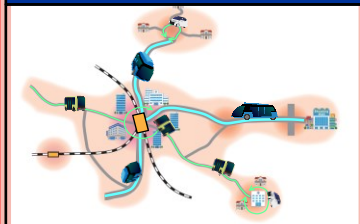
R3～R4年度

R5～R6年度

検討会

都市交通計画

都市交通の望ましい姿



街路空間の望ましい姿



都市交通施設

身近なエリアの望ましい姿



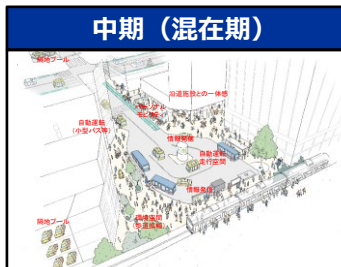
駅前広場の望ましい姿



深度化

深度化

中期（混在期）



長期



早期実装に向けた取組

短期的な社会実装として限定空間における実装に着目

- ・ 限定空間の考え方の整理
- ・ 社会実装における課題整理
- ・ 自動運転技術を活用したサービスの提供

都市側で検証すべき課題の整理

- ・ 都市交通、交通施設の望ましい姿を深度化

ポイント集作成検討

- ・ 都市空間における自動運転技術の導入のための考え方をまとめたポイント集の作成等

社会実験

- ・ 公共交通（バス）
- ・ 歩道を低速で走行するモビリティ（自律移動ロボ）

NT分科会

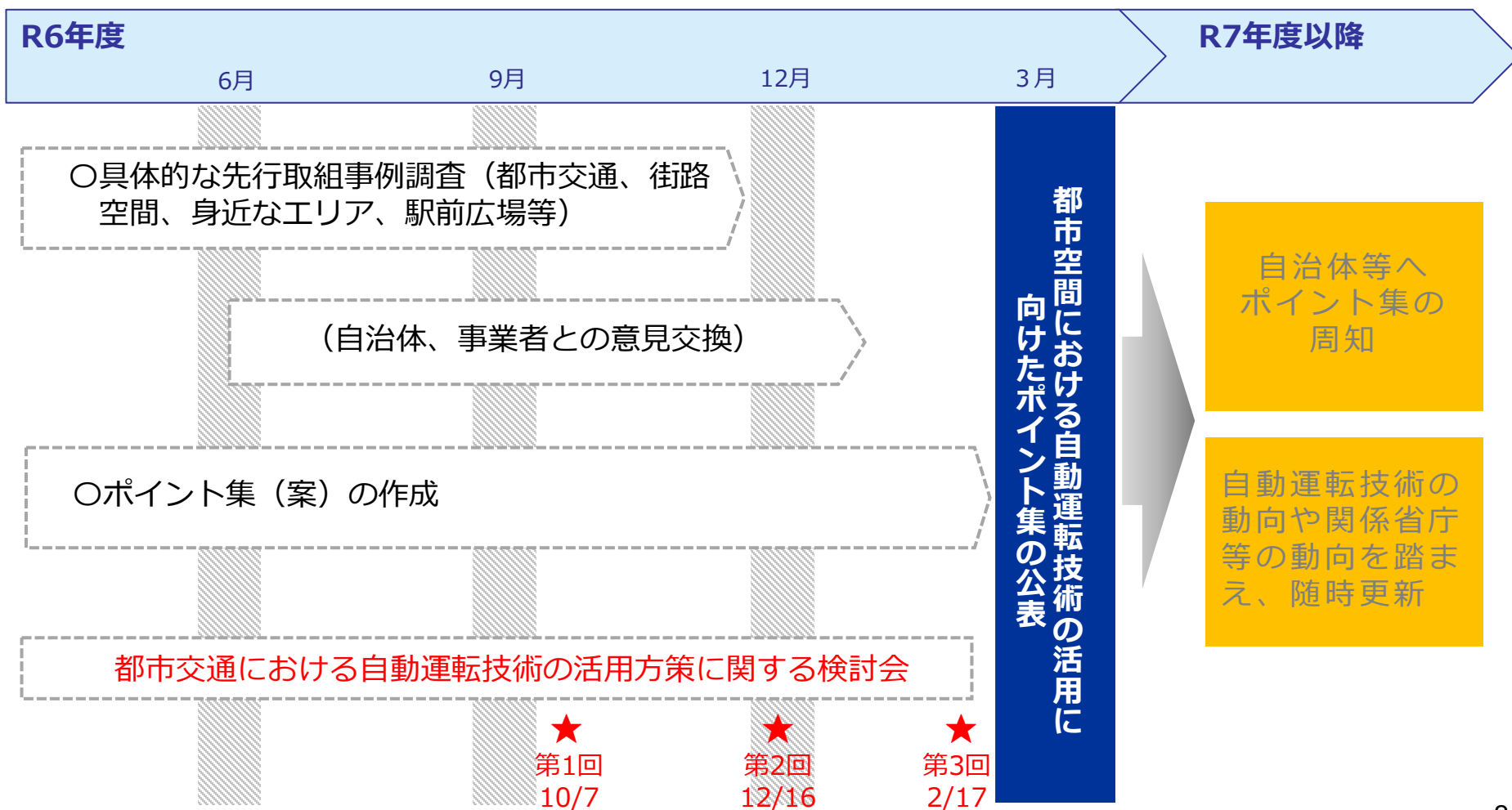
ニュータウン等における端末交通サービス導入及び自動運転技術活用に向けたポイント集の発出（R2年度）

バス分科会

基幹的なバスにおける自動運転導入に関する中間とりまとめ（R3年度）

R6年度の検討スケジュール

- 今年度は、自動運転社会における望ましい都市交通・都市交通施設のあり方検討を深度化させるため、それぞれの姿の実現に向けた対応策とそのポイントを整理。
- 今後は、具体的な先行取組事例を調査し、対応策とそのポイントを深度化し、都市における自動運転技術の活用に関するポイント集（案）を作成する。



■ 主なご意見

- 公共交通に触れているので、地域公共交通計画との関係についても記載すべき。
- 自動運転技術とコンパクト・プラス・ネットワークとの関係性がわかりにくい。コンパクト・プラス・ネットワークに自動運転がどういった影響を及ぼすのか、都市像との関係性をもう少し考えてもいいのではないか。
- コンパクト・プラス・ネットワークについて、コンパクトにしていくために自動運転をどう入れていくのか、ネットワークに対して自動運転をどう入れていくのかというところが気になる。
- 都市の目標と自動運転の関係を整理しているが、デメリット解消が強調されているので、もう少しメリットを記載し、魅力的な見せ方にしたほうがいい。
- 取組の方向性について、自治体が困難だと思わず、自分たちで取り組むことができると思えるような見せ方にすることが大事ではないか。
- ポイント集に記載する具体的な取り組み例について、注力するものを絞って示していくことと、役割分担を記載することが重要ではないか。

【ポイント集の作成・更新の考え方】

- まちづくり施策との連携や自動運転技術の普及により想定されるメリット・デメリット等、自動運転技術を活用する際の基本的な考え方を改めて整理。
- 今後、自治体の方が公共交通を中心としたまちづくりに自動運転技術を活用していく際の取組の方向性を示すものとして、具体的な取組内容やプロセス等を示す事例を掲載。